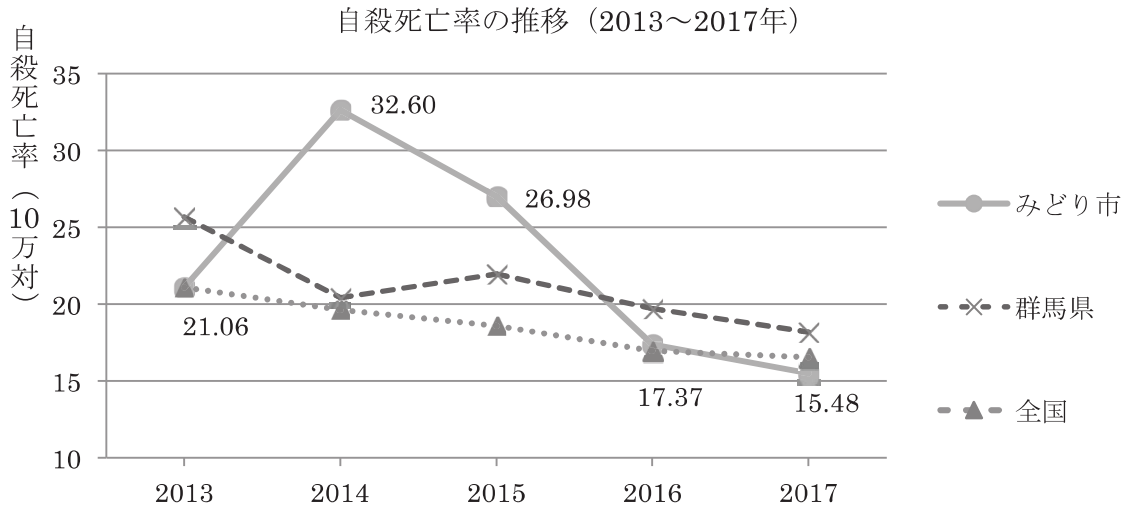


第2章 みどり市における自殺の特徴

1 自殺死亡率の推移

みどり市の自殺死亡率は、2016年（平成28年）までは全国平均を上回っていましたが、2017年（平成29年）には、15.48と全国平均を下回りました。

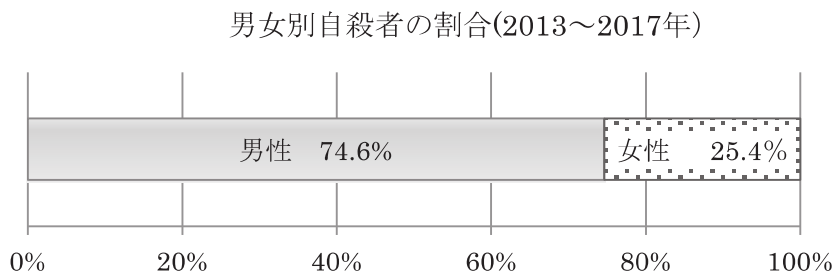


〈厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」から作成 みどり市〉

2 自殺の現状

1) 男女別自殺者の割合

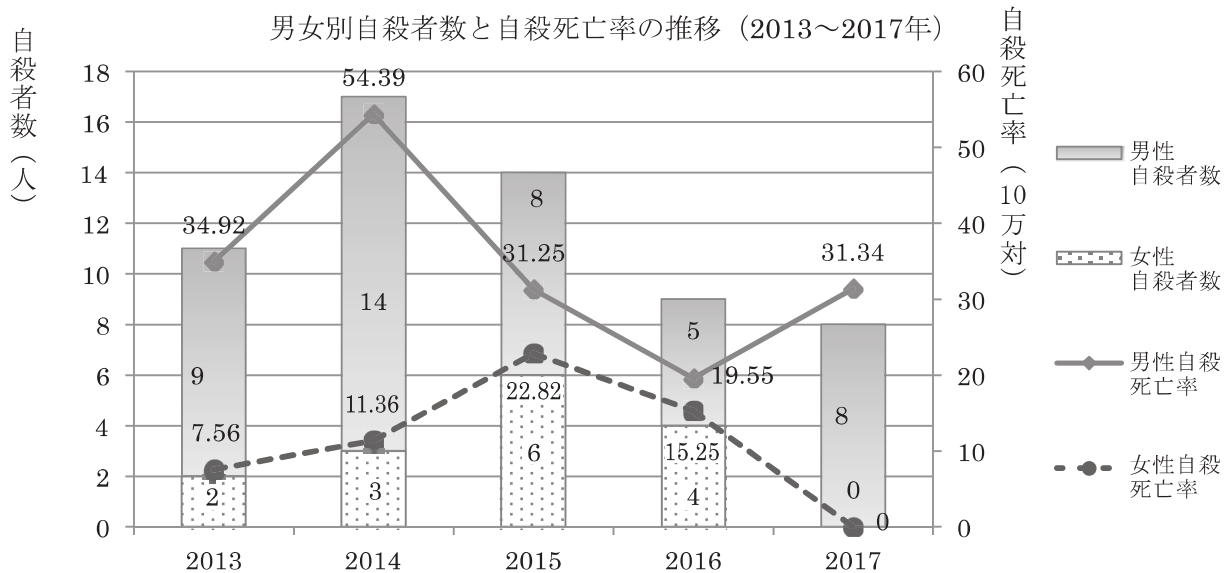
2013年（平成25年）から2017年（平成29年）までの、みどり市における自殺者は男性の方が多く、およそ74.6%を占めています。



〈厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」から作成 みどり市〉

2) 男女別自殺者数と自殺死亡率の推移

2013年(平成25年)から2017年(平成29年)までの、みどり市における自殺者数は2014年(平成26年)の17人が最も多く、2016年(平成28年)には9人、2017年(平成29年)には8人と減少しています。

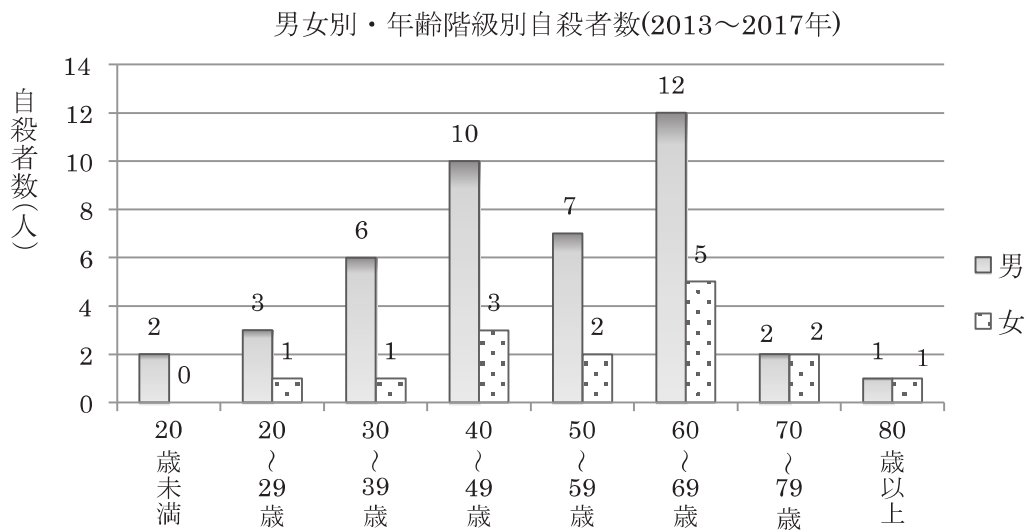


〈厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」から作成 みどり市〉

3) 男女別・年齢階級別自殺者数

2013年(平成25年)から2017年(平成29年)までの、みどり市における年齢階級別自殺者数をみると、最も多いのは60歳代男性で、次いで40歳代男性、50歳代男性という順位になっています。

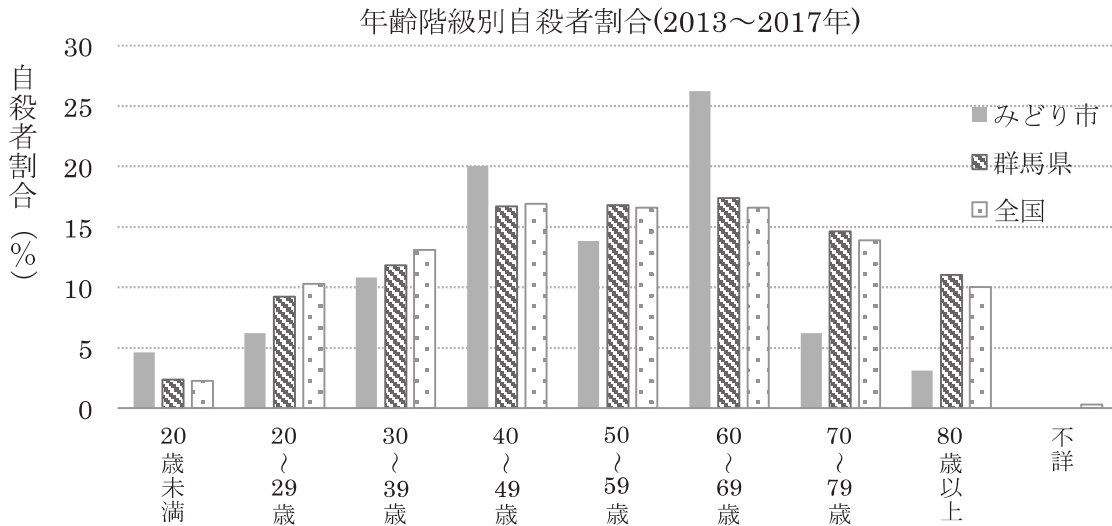
また、60歳代までは、女性よりも男性が多くなっています。



〈厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」から作成 みどり市〉

4) 年齢階級別自殺者割合

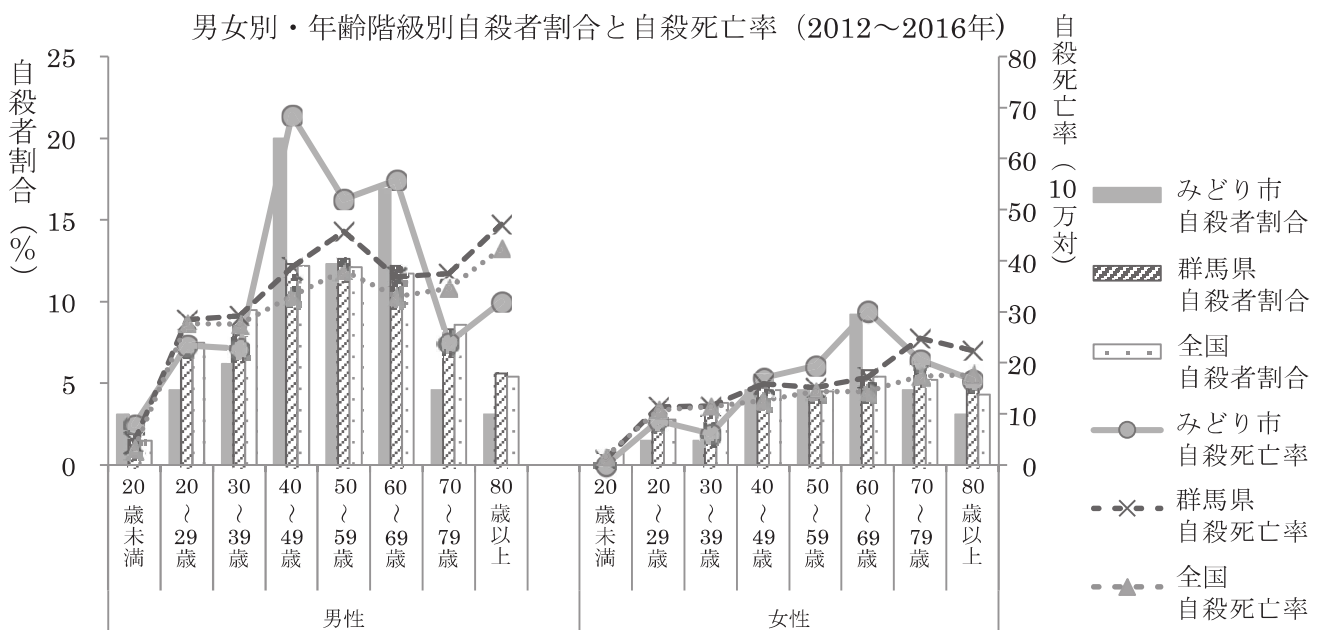
2013（平成25年）から2017年（平成29年）までの、みどり市における自殺者の年齢階級別割合は、60歳代、40歳代が高く、全国、群馬県と比べても高くなっています。また、20歳未満も高くなっています。



〈厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」から作成 みどり市〉

5) 男女別・年齢階級別自殺者割合と自殺死亡率

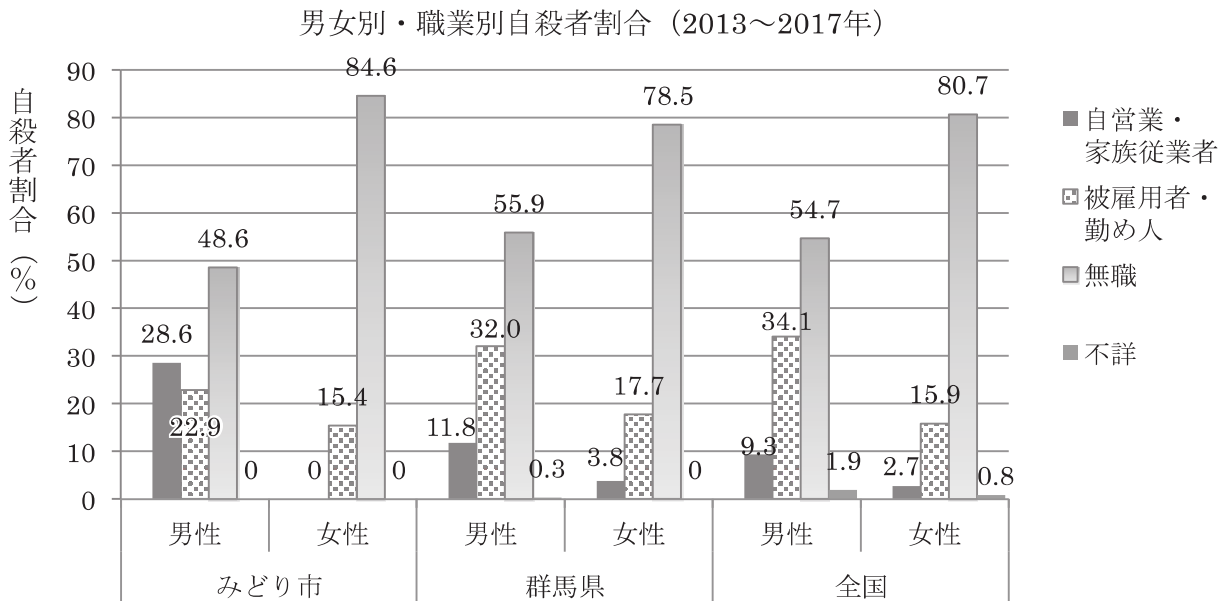
2012年（平成24年）から2016年（平成28年）までの、みどり市における男女別・年齢階級別の自殺死亡率をみると、40歳代男性、60歳代男性、60歳代女性が群馬県や全国に比べ、大幅に高くなっています。また、50歳代男性や、20歳未満男性、50歳代の女性も群馬県や全国よりも高くなっています。



〈自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロファイル」から作成 みどり市〉

6) 男女別・職業別自殺者割合

2013年(平成25年)から2017年(平成29年)までの、みどり市における自殺者を職業別にみると、男性の自営・家族従業者は、群馬県や全国と比べて非常に高くなっています。また、女性の無職者の割合が高くなっており、男女を合わせると、自殺者のうち62.7%が無職です。



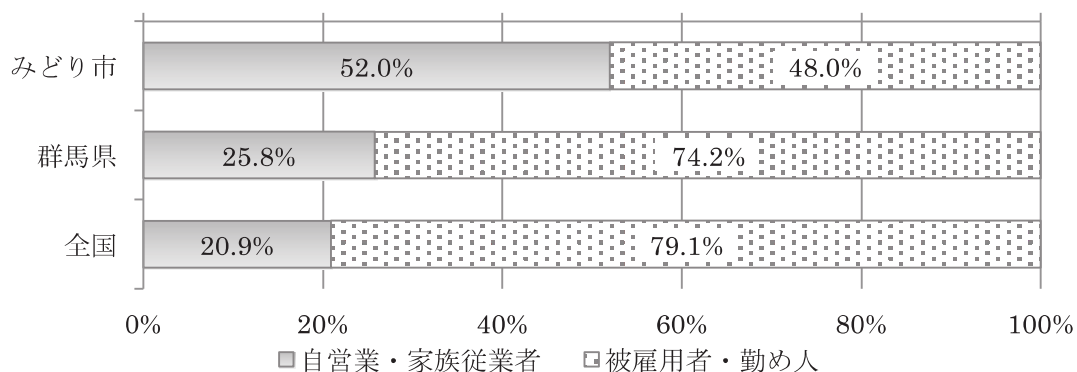
〈厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」から作成 みどり市〉

7) 自殺者の有職者内訳

2013年(平成25年)から2017年(平成29年)までの、みどり市における自殺者の有職者の内訳は、自営業・家族従業者、被雇用者・勤め人がおおよそ半々くらいになっており、群馬県や全国の割合と相違しています。

自殺者の有職者内訳 (2013~2017年)

職業	みどり市		群馬県割合	全国割合
	自殺者数	割合		
自営業・家族従業者	13人	52.0%	25.8%	20.9%
被雇用者・勤め人	12人	48.0%	74.2%	79.1%
合計	25人	100.0%	100.0%	100.0%



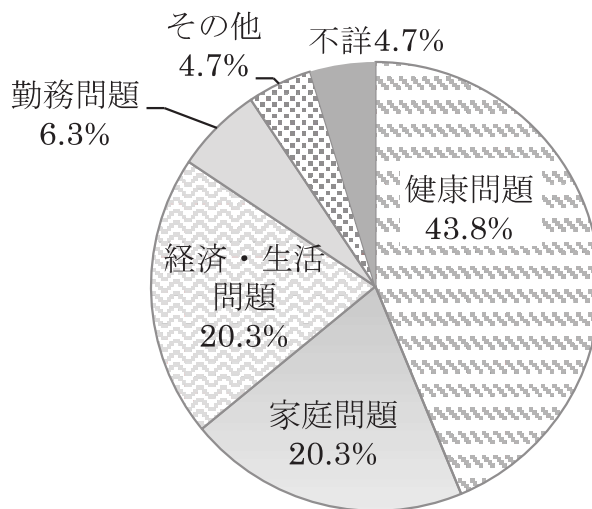
〈厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」から作成 みどり市〉

8) 自殺の原因・動機

2013年(平成25年)から2017年(平成29年)までの、みどり市における自殺の原因・動機^{*}で最も多いのは健康問題であり、次に家庭問題、経済・生活問題の順となっています。自殺の背景にある問題の多くは日常的なことですが、問題が複雑化・複合化し、これらの要因が連鎖し、問題が最も深刻化したときに自殺は起きると言われています。

※明らかに推測されるものを1人につき3つまで選択

自殺の原因・動機 (2013～2017年)

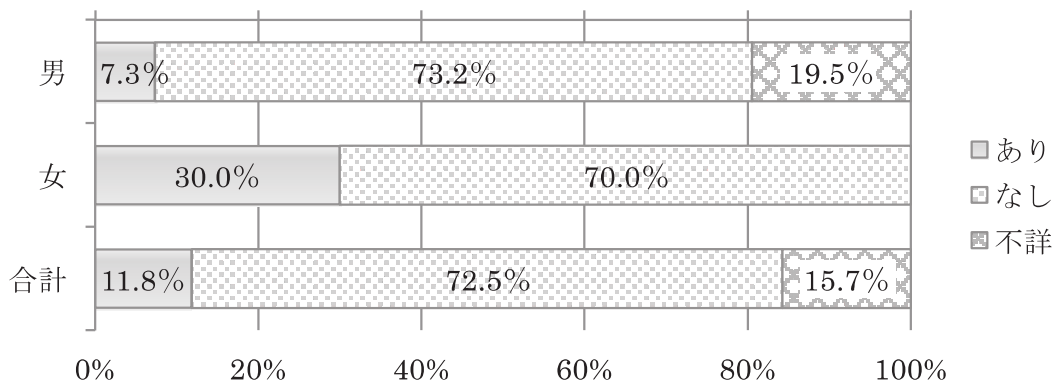


〈厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」から作成 みどり市〉

9) 自殺者の自殺未遂歴の有無

2013年(平成25年)から2017年(平成29年)までの、みどり市における自殺者のうち未遂歴のある人の割合は女性の方が多く、男女の合計では11.8%でした。

自殺者の自殺未遂歴の有無(2013～2017年)



〈厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」から作成 みどり市〉

10) 自殺者等の居住地内訳

2013年(平成25年)から2017年(平成29年)までの、みどり市に居住する人の自殺の状況(居住地)と、みどり市内で発見された人の自殺の状況(発見地)を比較すると、後者が21人多く、136%となっています。

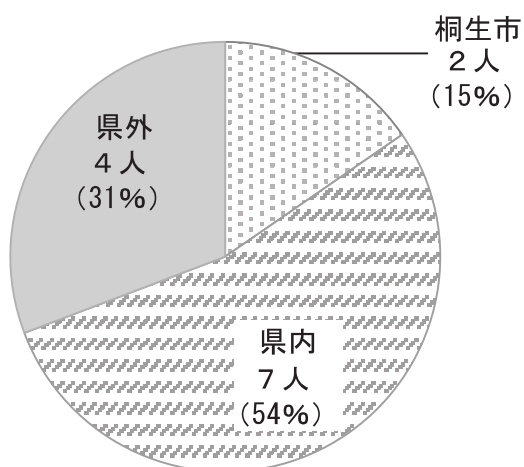
自殺者等の居住地内訳 (2013～2017年)

自殺日	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	合計
居住地	11人	17人	14人	9人	8人	59人
発見地	16人	17人	17人	16人	14人	80人

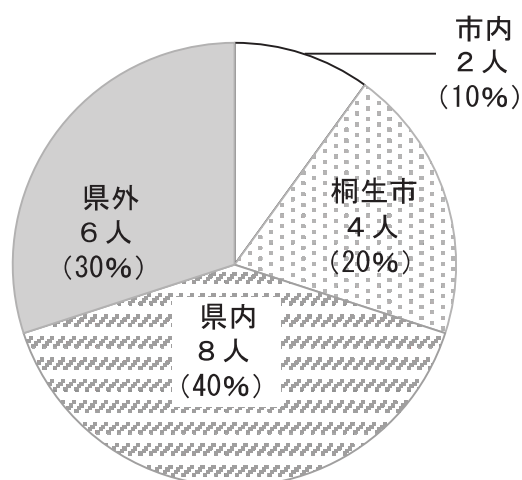
〈厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」から作成 みどり市〉

2015年(平成27年)から2018年(平成30年)9月までに、市内のハイリスク地において発見された自殺者は、全て市外居住者です。また、2016年(平成28年)から2018年(平成30年)9月までに、ハイリスク地周辺において保護された自殺企図者20人のうち、市外居住者は18人で90%を占めています。

自殺者の居住地内訳
(2015～2018年9月)



自殺企図者の居住地内訳
(2016～2018年9月)



〈桐生警察署から情報提供〉

11) 自殺の傾向と支援が優先されるべき対象群

2012年(平成24年)から2016年(平成28年)までの、みどり市における自殺の実態を分析した「地域自殺実態プロフィール」から、自殺者の多い上位5区分がみどり市の特徴として抽出されました。みどり市では、これら上位5区分を支援が優先されるべき対象群として、支援を進めていきます。

みどり市の主な自殺の特徴(2012～2016年合計 自殺日・住居地より)

上位5区分	自殺者数 5年計	割合	自殺死亡率* (10万対)	背景にある主な自殺の危機経路**
1位:男性40～59歳有職同居	11人	16.9%	39.6	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み +仕事の失敗→うつ状態→自殺
2位:男性60歳以上無職独居	7人	10.8%	232.9	失業(退職)+死別・離別→うつ状態→ 将来生活への悲観→自殺
3位:女性60歳以上無職同居	7人	10.8%	22.1	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
4位:男性20～39歳無職同居	5人	7.7%	173.2	①【30代その他無職】ひきこもり+家族 間の不和→孤立→自殺/②【20代学生】 就職失敗→将来悲観→うつ状態→自殺
5位:女性40～59歳無職同居	5人	7.7%	32.9	近隣関係の悩み+家族間の不和→うつ病 →自殺

〈自殺総合対策推進センター「地域自殺実態プロフィール」から〉

順位は自殺者数の多さに基づき、自殺者数が同数の場合は自殺率の高い順とした。

* 自殺率の母数(人口)は平成27年国勢調査を元に自殺総合対策推進センターにて推計した。

** 「背景にある主な自殺の危機経路」は自殺実態白書2013(ライフリンク)を参考にした。

3 その他の状況

1) 地域の就業者の居住地・従業地

みどり市民の就業者25,687人のうち14,263人(55.5%)が他市町村で従業しています。また、みどり市内従業者20,571人のうち9,555人(46.4%)が他市町村に居住しています。

地域の就業者の居住地・従業地

居住地 \ 従業地	みどり市	他市町村	不明・不詳	合計
みどり市	11,016人	14,263人	408人	25,687人
他市町村	9,555人	—	—	—
合計	20,571人	—	—	—

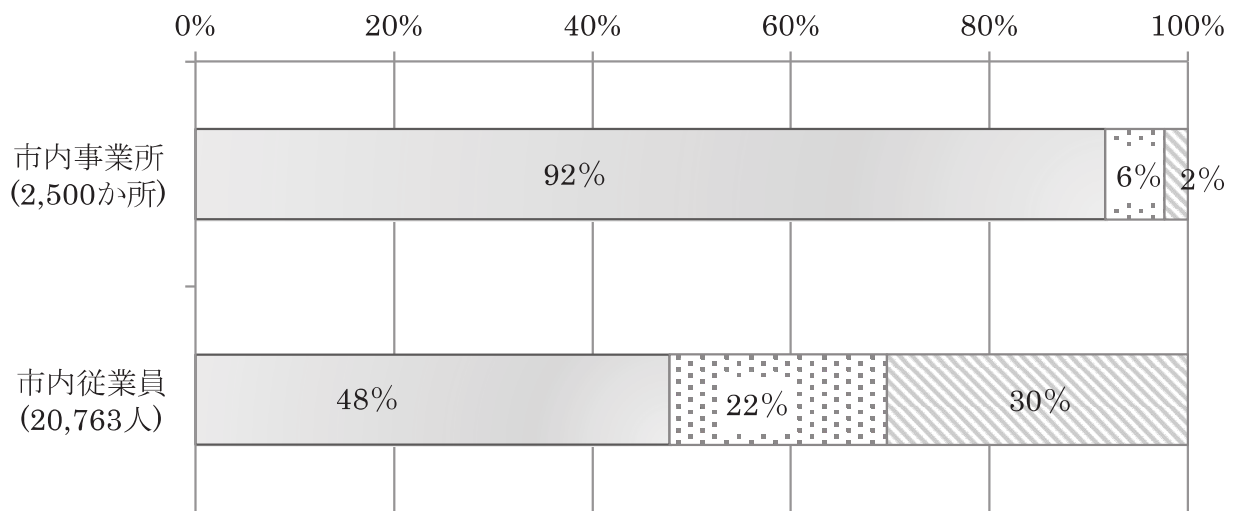
〈総務省 2015年国勢調査から〉

2) 規模別事業所と従業員割合

みどり市内の事業所のうち、従業員が19人以下の小規模事業所は92%となっています。また、市内の従業員のうち48%の人が従業員19人以下の小規模事業所に勤務しています。

労働者50人未満の小規模事業所では、メンタルヘルス対策を担当する部署や担当者の不在、メンタルヘルス対策や事業を行っていない事業所も多くあります。また、大規模事業所に比べ、メンタルヘルス対策が遅れがちであることが指摘されています。自殺対策推進の上でも、関係機関との連携による小規模事業所への働きかけが望まれています。

みどり市の規模別事業所と従業員割合



□従業員1～19人の事業所 □従業員20～49人の事業所 □従業員50人以上の事業所

〈総務省 2014年経済センサス基礎調査から〉